



あぐりログ本体

スマートフォン画面

本研究は、日本オペレータ(株)、(株)ファルコン、(株)IT工房Zとの共同研究の成果の一部です。

園芸施設内環境を観測する安価なシステム 「あぐりログ」を開発

「あぐりログ」は施設内の温度や湿度、二酸化炭素濃度などの環境情報を作目を問わず観測できるシステムです。

「あぐりログ」は専用のセンサボックスを施設内に吊り下げ、電源に接続するだけで利用できます。また、スマートフォンやパソコンを用いてリアルタイムの環境情報を安価で手軽に確認することが

できるだけでなく、施設内の異常を知らせる警告メール機能やデータをクラウド^{注)}上に蓄積する機能も備えています。

「あぐりログ」は、施設栽培の適切な環境制御を支援する機器として普及することが期待されます。(園芸研究部)

注) ネットワーク上のサーバーにデータやソフトウェアを保有し、必要に応じてネットワーク経由で利用者に提供するもの。



造成した系統（左：ブラウン系統「BB」のオス 右：野生色系統「WW」のメス）



オスのヒナ
（野生色）



メスのヒナ
（茶色）

「BB」のオスと「WW」のメスを
交配して生まれたヒナ



卵殻の表面が粉をふいたように白い
粉ふき卵は市場で好まれます

羽色で雌雄鑑別も可能な高性能ウズラを開発

愛知県のウズラの飼養羽数は全国1位です。生産農家の多くが自家繁殖を行っており、近親交配による生産性の低下が問題となっています。

そこで県内のウズラと血縁の離れたものを素材に系統造成に取り組み、ブラウン系統「BB」及び野生色系統「WW」の羽色の異なる2系統を開発しました。これらの系統は産卵性や規格卵率に優れ、

商品価値の高い「粉ふき卵」をよく産みます。

今回開発した系統を種鶉を使用することで、生産されるウズラの生存率や生産性の向上が期待されます。

さらに、「BB」のオスを利用することにより羽色で容易にヒナの雌雄を鑑別することができ、生産コストの削減につながります。
(畜産研究部)

エコマムに適応する品種

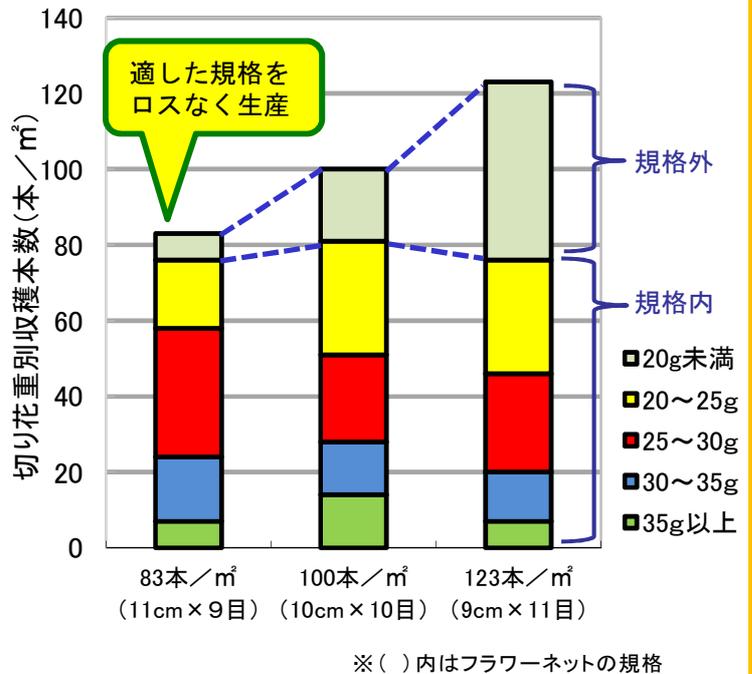


「なつき愛」



年4作体系の生産スケジュール

最適栽植密度



「なつき愛」の栽植密度と切り花重別割合

本研究は農食研究推進事業「きく生産・流通イノベーションによる国際競争力強化」で実施しました。

家庭需要に適した規格の輪ギク（エコマム）の効率的な生産技術を開発

家庭需要に適した切り花長の短い規格の輪ギクをエコマムといいます。通常の輪ギクの規格は切り花長90cmですが、切り花長65cm、切り花重20g以上のエコマムをロスなく大量に生産できる技術を開発しました。

①茎伸長性の優れる品種・系統を選定し、②定植から消灯までの期間を夏は4週間、冬は5週間として、③栽植密度は

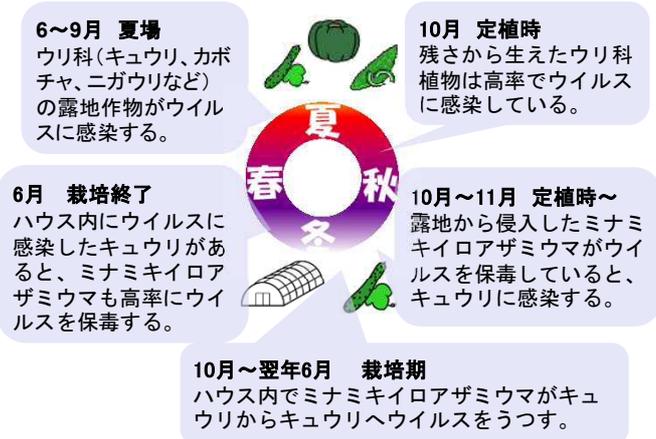
11cm角の9目のフラワーネットを用いて83本/m²とすることで、10aあたり48,000本/作、年間4作のエコマムを効率的に生産できます。

これにより、通常の生産に比べて年間1作多くなり、生産本数は1作あたり1.2倍、年間では1.6倍に増やすことができます。(東三河農業研究所)

研究トピックス

キュウリ黄化えそ病の伝染環を解明

愛知県の施設キュウリでは、10年ほど前からミナミキイロアザミウマが媒介するウイルス病「黄化えそ病」が発生し始め、生産農家は対策に苦慮してきました。調査の結果、施設周辺のウリ科植物が感染源となることが明らかとなりました。（環境基盤研究部）



キュウリ黄化えそ病の伝染環

防除対策については、愛知病害虫情報をご覧ください。
(<http://www.pref.aichi.jp/byogaichu/>)

着果量を制限して糖度の高い「シャインマスカット」を生産

ブドウは着果量が糖度に影響しますが、「シャインマスカット」は果皮が緑色で見た目から糖度を推測するのは困難です。2009年から5年間、無核栽培の2樹で調べたところ、10aあたり1,800kg程度（巨峰の1.5倍相当）の着果量で、収穫時の糖度は18%以上となりました。しかし、成熟期の天候が不良な2011年は、糖度が上昇しませんでした。このため、10aあたりの着果量は1,800kgを目標とし、成熟期に日照が少なく降雨が多い年には、1,500kg程度まで制限するのが適当です。

(園芸研究部)



「シャインマスカット」

グリホサート抵抗性のネズミムギを確認

西三河の一部地域の生産者から、非選択性除草剤のグリホサート液剤を散布してもネズミムギ（牧草のイタリアンライグラスが野生化したもの）が枯れずに残る問題が指摘されました。残ったネズミムギの種子を採取して検定したところ、その多くがグリホサート抵抗性であることが確認されました。今後、更に蔓延する可能性があるため、発生が確認された場合にはグリホサート以外の非選択性除草剤による防除が必要です。（作物研究部）



グリホサート液剤散布後に残る抵抗性ネズミムギ
(左：水稲不耕起V溝直播栽培ほ場内 右：水田畦畔)

本研究は（公）日本植調協会「植物調節剤の研究開発事業」で実施しました。

試験場の体制が新しくなりました

○次世代施設野菜研究室を新設

情報通信技術（ICT）の活用、水耕栽培技術や野菜の機能性の付加など、施設野菜の革新的な生産技術に関する研究を行うため、野菜部門を再編し、次世代施設野菜研究室を本場（長久手市）に新設しました。これに伴い、特産野菜研究室（弥富市）は廃止しました。

○知的財産活用担当を新設

農業総合試験場が開発した技術・品種の普及や開発支援に取り組むため、経営情報研究室に知的財産活用担当を配置しました。今年度から、それらの技術や品種と生産・利用・消費を繋ぐ様々なニーズに応える取り組みを進めていきます。

研究短報第112号

編集・発行 愛知県農業総合試験場

〒480-1193 愛知県長久手市岩作三ヶ峯1-1

TEL 0561-62-0085 内線322 (企画普及部)

FAX 0561-63-0815

<http://www.pref.aichi.jp/nososi/>